

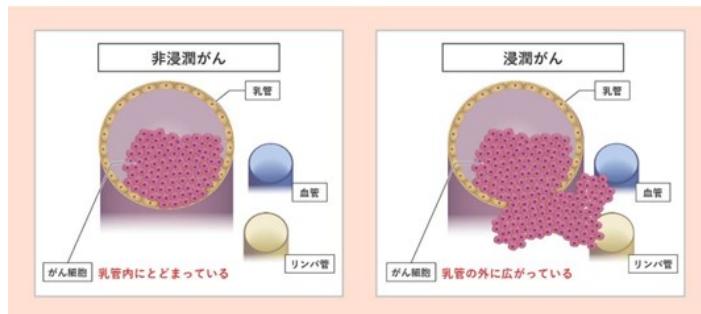


9月の乳がんサロンは、18日（木）に開催されました。テーマは「乳がん治療～近年のトピックス～」でした。講師は、乳腺外科の川又あゆみ先生です。

1. 乳がん分類

乳がんにはいろいろなグループ分けがあります。まず、発症の仕方で分けます。乳がんが、乳管を囲む乳管上皮細胞という細胞から発生し、乳管の壁を突き破ることなく乳管内にとどまっているのを、非浸潤がんとよびます。いわゆるステージ0のがんです。一方、乳がん細胞が乳管の壁を突き破り、周囲の組織まで浸出しているのを浸潤がんといいます。

＜乳がんの広がり方＞



さらに、浸潤がんは、しこりの大きさや腋のリンパ節に転移があるかどうか、遠隔転移があるかどうかによってステージ1～4へ分けられます。

そして、治療を考える上で重要なグループ分けが、サブタイプ分類です。ホルモン陽性をルミナールタイプといい、HER2陽性をHER2陽性乳がんといいます。そしていずれも陰性のものをトリプルネガティブ乳がんといい、このタイプに応じて治療方針が異なります。

＜サブタイプ分類＞

	ホルモン受容体陽性		ホルモン受容体陰性
増殖	活発でない	活発	
HER2 陰性	ホルモン受容体陽性 /HER2 陰性 ルミナル A ホルモン療法	ホルモン受容体陽性 /HER2 陰性 ルミナル B ホルモン療法+化学療法	トリプルネガティブ (ホルモン受容体陰性 /HER2 陰性) 化学療法
HER2 陽性	ホルモン受容体陽性 /HER2 陽性 抗 HER2 療法+化学療法+ホルモン療法	ホルモン受容体陰性 /HER2 陽性 抗 HER2 療法+化学療法	

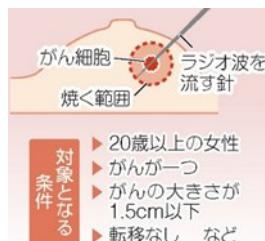
2. 乳がんの治療

乳がんの治療は、初期乳がんには、局所療法として手術を行い、再発予防のため、タイプに応じて全身療法の抗がん剤やホルモン剤、抗HER2療法や分子標的療法を行います。一方、転移性乳癌に対しては、全身療法、つまり、抗がん剤、ホルモン剤、分子標的薬などの薬物療法が中心となります。

3. 乳がんのトピックス：①

＜ラジオ波焼灼術＞

基準を満たす一部の方に限られますが、新たな治療法として切らない治療、ラジオ波焼灼術が2023年12月から保険診療で行うことができるようになりました。全身麻酔は必要ですが、皮膚表面から乳癌の患部に電極を刺入して、高周波電流によって腫瘍組織を焼灼凝固する方法です。



4. 乳がんのトピックス：②

＜抗体薬物複合体（ADC）＞

抗体薬物複合体は、抗体によってがん細胞に標的を絞り、抗体にくっつけた薬物をがん細胞内に直接届ける薬剤です。この薬剤は、抗体によってがん細胞を認識することでがん細胞は攻撃するが、正常な細胞への影響は最小限にとどめる目的で設計された、新しいタイプのがん治療薬です。



HER2陽性乳がん：エンハーツ®
ホルモン陽性乳がん：ダトロウェイ®
トリプルネガティブ乳がん：トロデルビ®

古くからある抗がん剤のように、がん細胞だろうが正常細胞だろうが、どんな細胞でも全部攻撃してしまう薬剤よりダメージが少ないと考えられています。

先駆けは、HER2陽性乳がんの治療薬でしたが、開発が進み、現在では、すべてのタイプで抗体薬物複合体が使用できる状況となっています。

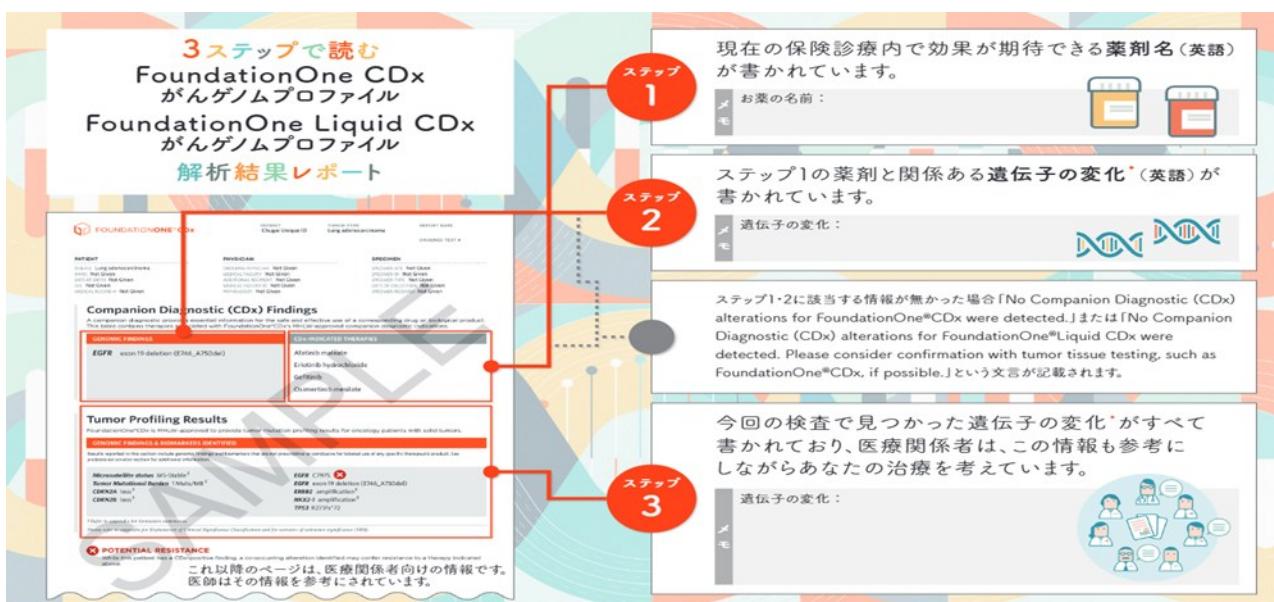
5. 乳がんのトピックス：③

＜遺伝子検査＞

それほど新しい話ではありませんが、早期乳がんの方でも再発転移乳がんの方でも遺伝子検査について考える機会が増えています。乳癌領域は、BRCA1/2遺伝子検査（遺伝性乳癌卵巣がん症候群）、Oncotype Dx®（早期乳がんの方で術後抗がん剤を追加するかどうかの指標）、FoundationOne CDx（遺伝子レベルでがんの特性を知り、治療方針選択の一助となる）といったものがあります。

＜Oncotype Dx®＞

オンコタイプDX乳がん再発スコア検査は、21遺伝子の発現量を測定することで一人ひとりの腫瘍の生物学的特性を明らかにします⁹。



6. おわりに

当院では、患者さんにかかりつけ医を作っていただき、術後連携を行うことを勧めています。そうすることで、患者さんも相談先が増え、乳がんだけではなく、些細な体の不調にも対応できると考えます。乳がんと告知さ

れてから不安を抱えていらっしゃる方は多いと思います。しかし、そんな時には、当院乳腺外科医、また、かかりつけの先生にご相談いただき、一緒に解決していくけれど大変うれしく思います。



【事前申し込み・お問い合わせ先】

呉医療センター・中国がんセンター
がん相談支援センター

☎ : 0823-24-6358
(直通電話)

平日：9時～16時

よろず・がん相談窓口 (④番窓口)

平日：8時30分～17時15分



寄稿：乳腺外科 川又あゆみ 先生
編集：がん相談支援センター

